

各通り、広場・公園、駅前広場のまちづくりイメージ案について

平塚市では、令和4年度～令和6年度の3カ年で平塚駅周辺地区の将来（概ね20年後）のあるべき姿を共有し、民間の投資意欲を高め、敷地の共同化を推進し、持続可能なまちづくりを実現するために「平塚駅周辺地区将来構想」を策定することとしています。

■これまでの検討

「平塚駅周辺地区将来構想」の策定に向けて、昨年度から検討を進め、まちづくりのコンセプト、まちづくりの方針について検討を行い、駅前広場や道路など都市を構成する4つのイメージをたたき台としてとりまとめました。

このたたき台をもとに、現在は平塚駅周辺地区の通りやエリアに反映したときのイメージを検討しています。

《まちづくりのコンセプト》

平塚駅周辺地区をみんなのリビングに

～充実した日常の中にときめきを感じられるそれぞれが居心地のよいまちづくり～

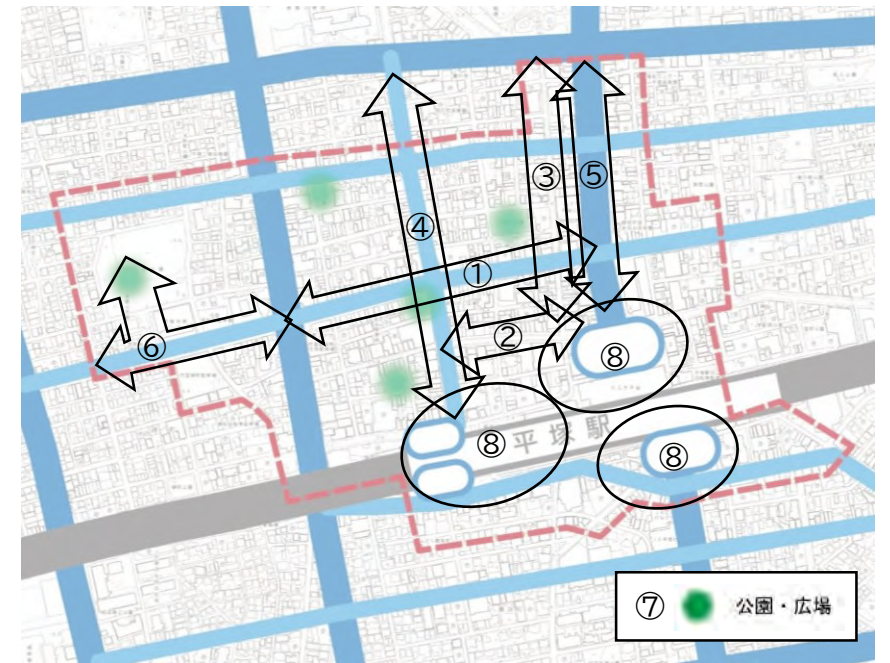
《まちづくりの方針》

- 1 地域資源・商店街の特色を活かしたまちの魅力づくり
- 2 賑わい・交流を創出するウォーカブルネットワーク
- 3 多様な活動を支える機能誘導と配置
- 4 市街地の更新
- 5 グリーンインフラの活用による快適性・防災性の確保
- 6 移動しやすい環境づくり
- 7 スマートシティと平塚発の新技术活用

■検討している通り、広場・公園、駅前広場

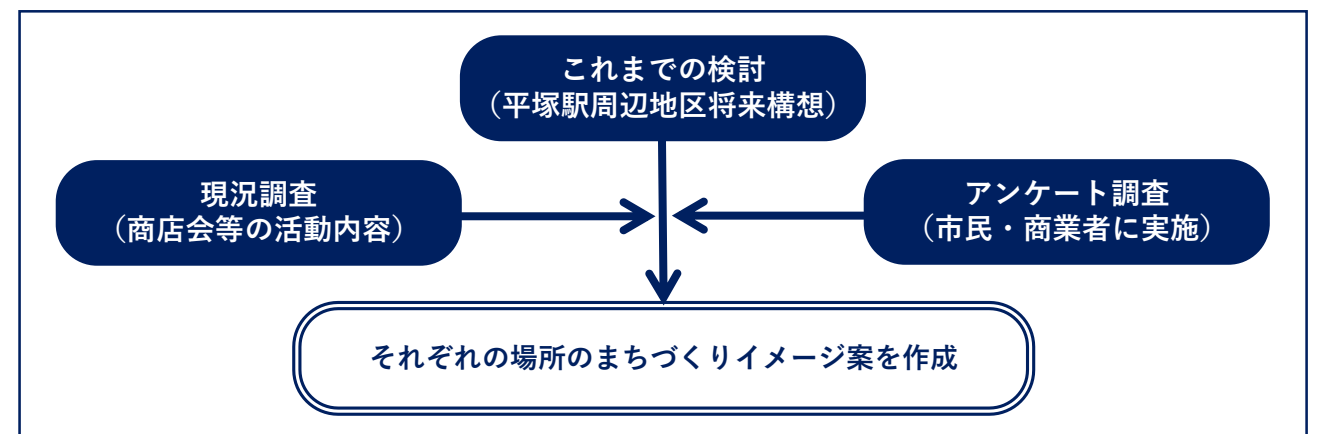
駅から近い主な通りを中心に検討する各通り、広場・公園、駅前広場を以下のように設定しました。

- ① 湘南スターモール
- ② 紅谷パールロード
- ③ 大門通り・浜大門通り
- ④ 公園通り
- ⑤ フェスタロード
- ⑥ 見附台
- ⑦ 広場・公園
- ⑧ 駅前広場



■それぞれの場所のまちづくりイメージ案の検討フロー

「平塚駅周辺地区将来構想」の策定に向けて、検討してきたまちづくりのコンセプト、まちづくりの方針に加えて、それぞれの場所の現在の状況や昨年度実施したアンケート調査の結果をもとに、まちづくりイメージ案を作成しました。



★ 湘南スターモールのまちづくりイメージ案

■これまでのうごき

○七夕のメイン通り

湘南スターモールは、湘南ひらつか七夕まつりのメイン通りとして商店街を形成しています。アーケードには七夕まつりのための配線、歩道には竹飾りを支えるための土台があります。これからも、七夕まつりのメイン通りとして商店街を継続していくことが求められています。



○湘南スターモール商店会で作成した通りのまちづくりガイドライン

湘南スターモール商店会では、令和2年度に「湘南スターモール商店街でめざすまち」を作成し、「豊かで楽しい時間を過ごせるメインストリートへ」を目標に様々な取組みを進めています。その中でハード整備については、ゆっくり滞在したくなる空間について記載されています。

湘南スターモール商店街でめざすまち

《まちづくりの目標》

豊かで楽しい時間を過ごせる
メインストリートへ！

やりたいこと

- 自転車で買い物に来られる仕組みづくり
- ゆっくり滞在したくなる空間とサービス
- ベストなテナントミックス
- スターモールにハレの日を
- スターモールらしい景観と演出



○歩道を活用した

滞留空間をつくる社会実験

湘南スターモール商店会では、ガイドラインに基づき、様々な取組みを行っています。その中で、令和3年以降毎年ハッピープロジェクト（キッチンカーイベント）を行っています。このイベントで、歩道上に滞留空間をつくり、ゆっくり滞在したくなる空間を実際に作る社会実験が行われました。

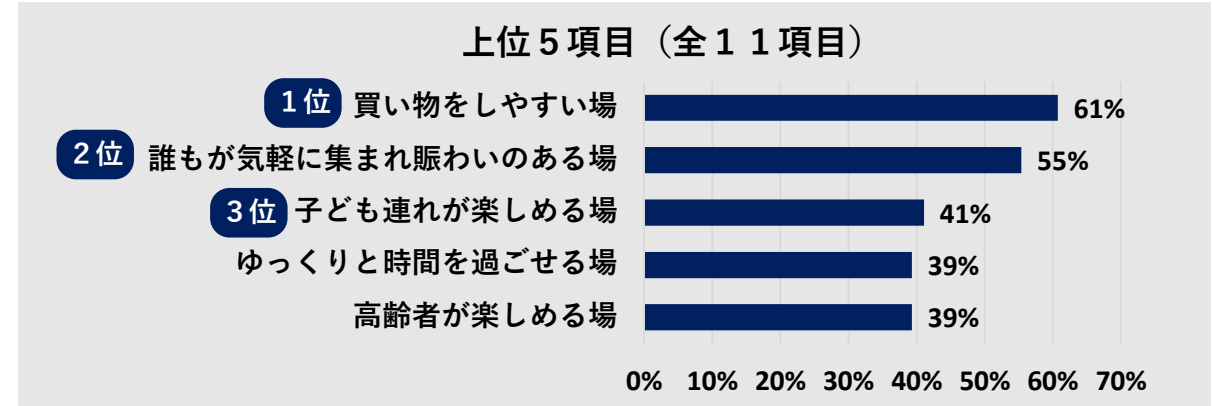


■商業者アンケートの結果

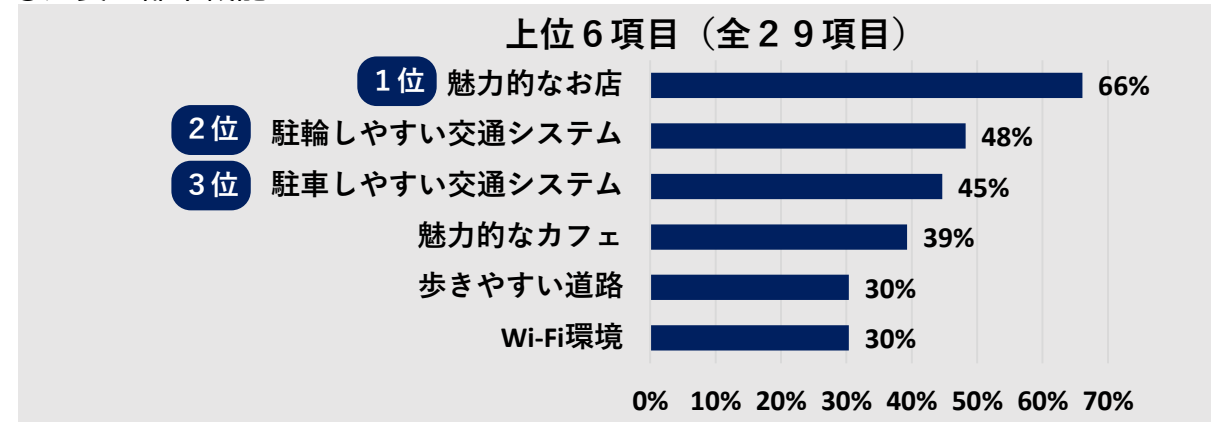
令和5年2月～3月にまちなかの商業者を対象に将来構想についてアンケートを行いました。湘南スターモール商店会の結果は以下のようになりました。

対象：湘南スターモール商店会
回答者：56名（72名中）
回答率：77.8%

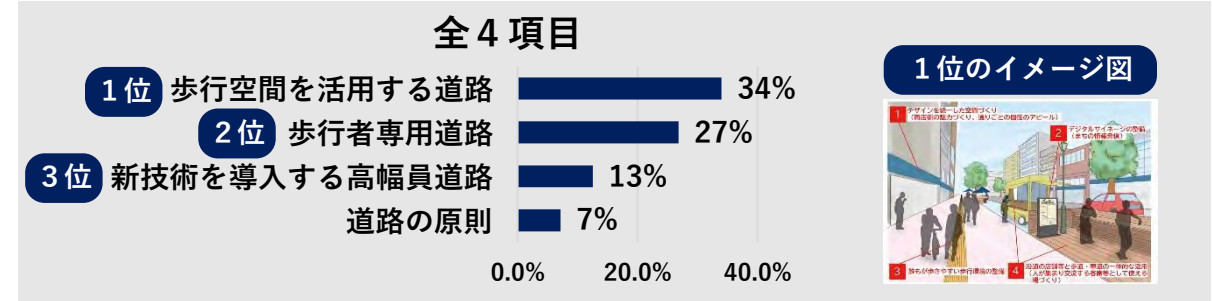
①商店会の将来像



②必要な都市機能



③望ましい道路のパターン



○アンケートから把握できるニーズ

将来像は、「買い物しやすい場」「誰もが気軽に集まれ賑わいのある場」が多くなっています。また必要な機能は、「魅力的なお店」「駐輪・駐車しやすいシステム」が多くなっています。そして、望ましい道路のパターンは、「歩道空間を滞留空間として活用する道路」が一番多く選ばれました。

★ 湘南スターモールのまちづくりイメージ案

七夕まつりのメイン通りとして、商店街を維持していくとともに、歩道空間を活用し、滞留空間をつくることで、ゆっくり滞在したくなる空間が求められています。

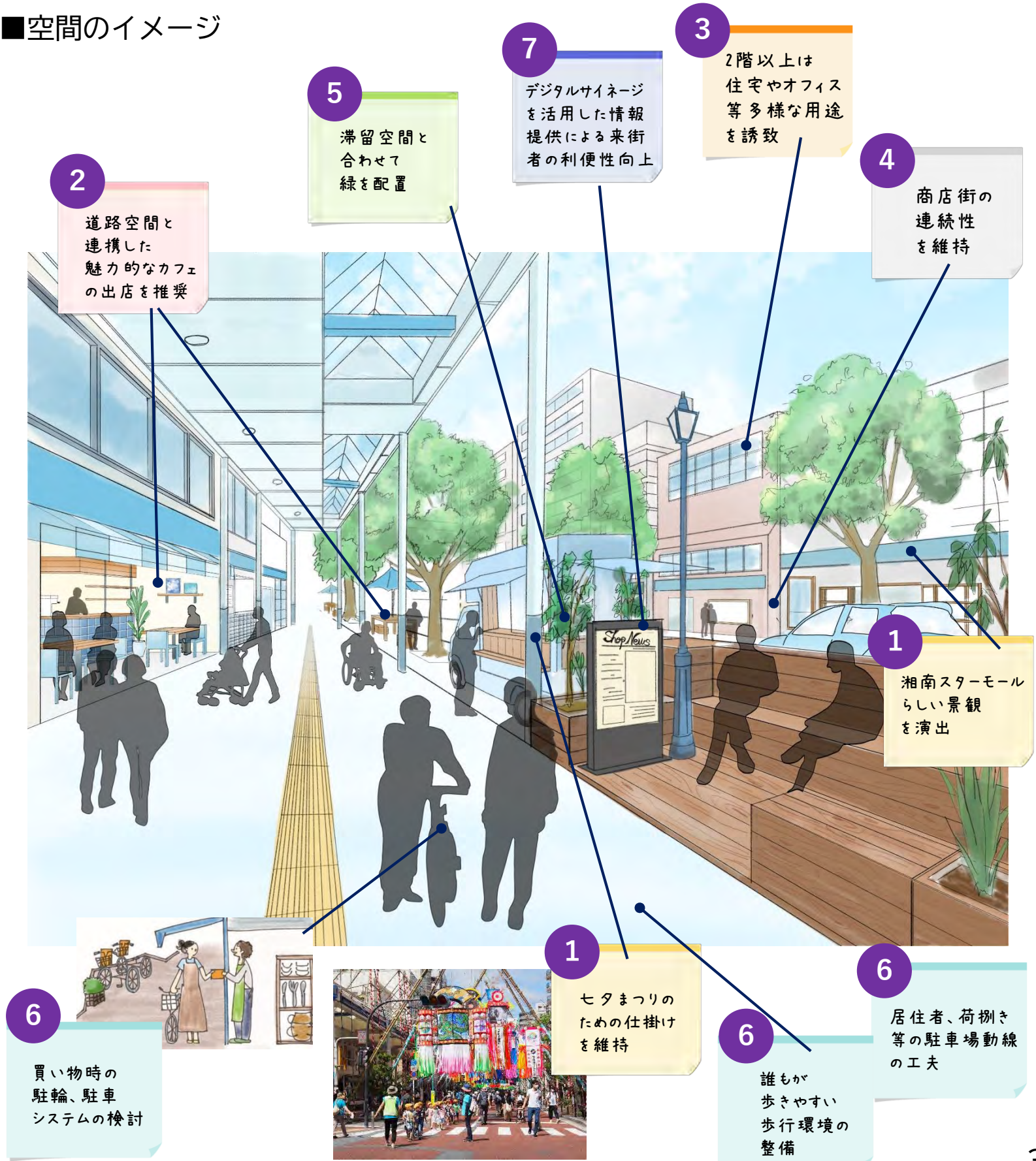
■まちづくりのコンセプト

豊かで楽しい時間を過ごせる
メインストリートへ！

■まちづくりの方針

- 1 地域資源・商店街の特色を活かしたまちの魅力づくり**
湘南スターモールらしい景観を演出していきます。また、七夕まつりのための仕掛けを維持していきます。
- 2 賑わい・交流を創出するウォークブルネットワーク**
歩道は、歩行空間を確保した上で一部を「誰もが気軽に集まれ賑わいのある場」や「子ども連れが楽しめる場」、「駐輪しやすいシステム」として活用できる空間を確保していきます。さらに、店舗と公共空間（歩道上空間、広場等）の連携をはかり、商店会や店舗側が柔軟に利用できる仕組みをつくっていきます。
- 3 多様な活動を支える機能誘導と配置**
「買い物しやすい場」となるように、1階は「魅力的な店舗」とし商店街のつながりをつくっていきます。2階以上は、店舗以外にも、事務所や住宅等多機能な場とすることが考えられます。また、道路空間と連携した魅力的なカフェの出店等を推奨していきます。
- 4 市街地の更新**
「誰もが気軽に集まれ賑わいのある場」「子ども連れが楽しめる場」となるように建物の更新と合わせて多くの方が集まる機能を誘致していきます。また、商店街の連続性を維持できるような建物の建替えを推奨していきます。
- 5 グリーンインフラの活用による快適性・防災性の確保**
「誰もが気軽に集まれ賑わいのある場」となるように、歩道に余裕のある部分の活用に合わせて植栽を配置することで、通りのグリーンネットワークを形成します。
- 6 移動しやすい環境づくり**
誰もが歩きやすい歩行環境を整備するとともに、買い物時の駐輪、駐車システムや駐車場の出入り口を工夫することで歩行者がより移動しやすい通りとしています。
- 7 スマートシティと平塚発の新技术活用**
デジタルサイネージ等を活用した情報提供により来街者の利便性を向上させていきます。

■空間のイメージ



紅谷パールロードのまちづくりイメージ案

■これまでのうごき

○歩行者天国

紅谷パールロードは、平塚駅周辺では唯一、車道と歩道で段差がなく、歩行者天国（時間規制あり）となっている商店街です。しかし、実際に車道部分を歩いている人は少ない状況です。そのため、歩行者天国となっている車道部分を有効に活用していくことが求められています。



○イベント時の状況

紅谷パールロードはまちなかの様々なイベント会場となっている他、毎月第四土曜日には湘南ひらつか駅前骨董市を開催しています。車道と歩道の段差がないため、一体として活用しているイベントが多く、最近では、平塚夕暮れ夏祭りで、車道部分に滞留空間をつくることで、多くの方の利用が見られました。



湘南ひらつか駅前骨董市



夕暮れ夏祭り

○歩行者天国を活かした滞留空間をつくる社会実験

令和4年には、商店会と平塚まちなか活性化隊が連携して、車道部分を活用し滞留空間をつくる社会実験が行われました。沿道の飲食店からテイクアウトしたものを食べる空間として活用している方もいました。

オープンスペース活用実験の様子

紅谷パールロードの活性化を目的とし、イス・テーブル、芝生広場等を設置して、休憩・交流ができるスペースが作られました。また、店舗紹介カードを作成し、立ち寄った方が気軽に見られるようにしていました。



■事業者アンケートの結果

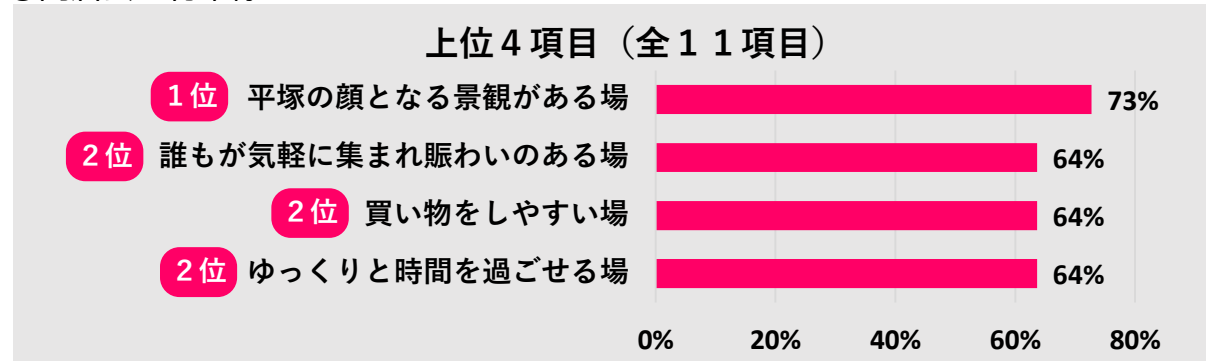
令和5年2月～3月にまちなかの事業者を対象に将来構想についてアンケートを行いました。紅谷パールロード商店会の結果は以下のようになりました。

対象：紅谷パールロード商店会

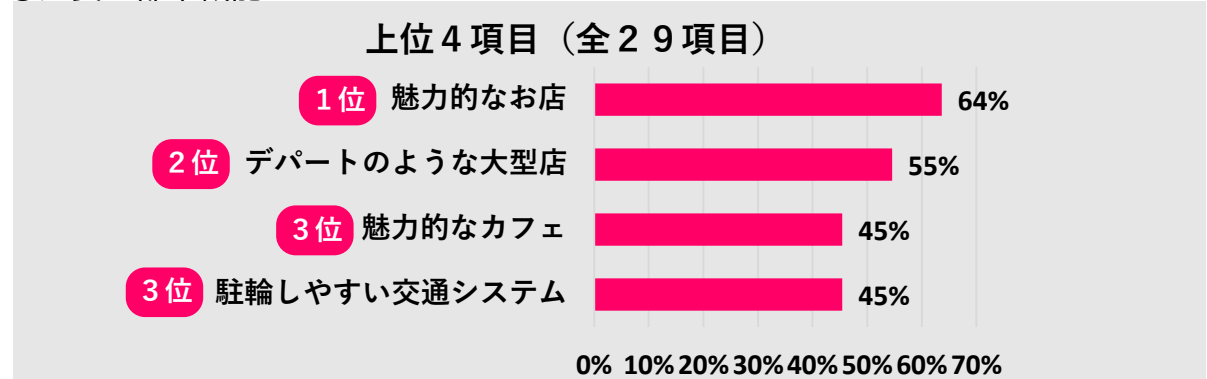
回答者：11名（45名中）

回答率：24.4%

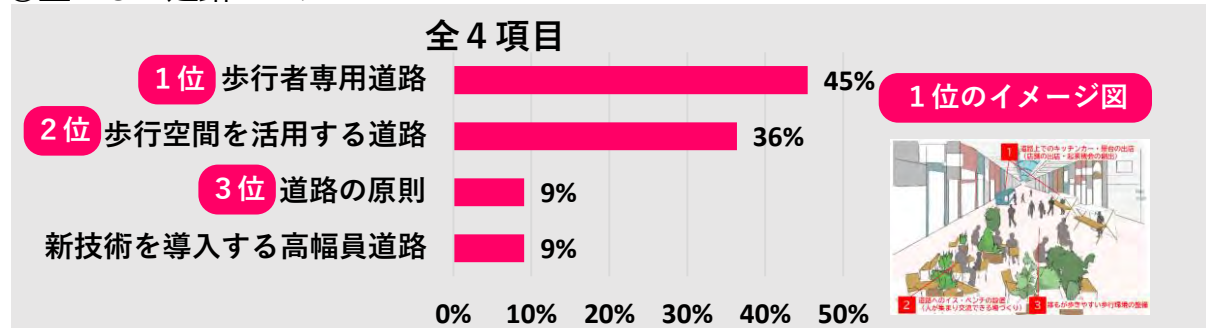
①商店会の将来像



②必要な都市機能



③望ましい道路のパターン



○アンケートから把握できるニーズ

将来像は「平塚の顔となる景観がある場」が一番多くなりました。また必要な機能は「魅力的なお店」「デパートのような大型店」が多くなりました。そして、望ましい道路のパターンは、通り全てを滞留空間として活用する「歩行者専用道路」が一番多く選ばれました。

紅谷パールロードのまちづくりイメージ案

平塚のまちなかでは唯一、車道と歩道で段差がなく、歩行者天国となっていることを活かし、通り全体を滞留空間等多様な使い方ができる空間が求められています。

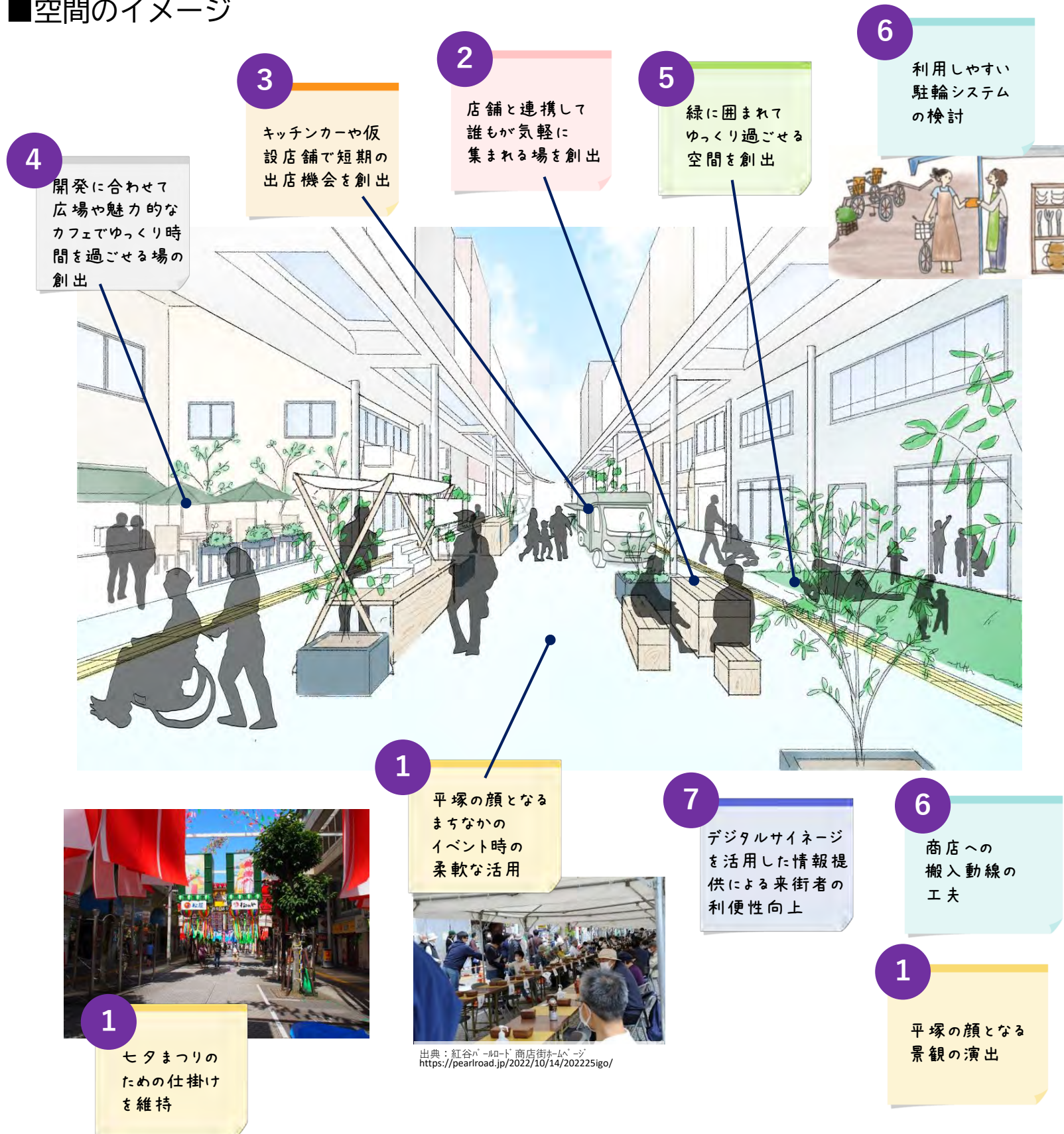
■まちづくりのコンセプト

店舗内と道路空間を一体的に活用し、
飲食をメインテーマとするモール

■まちづくりの方針

- 1 地域資源・商店街の特色を活かしたまちの魅力づくり**
「平塚の顔となる景観」を景観ガイドラインやイベント時をはじめ演出していきます。また、七夕まつりをはじめとするイベントのための仕掛けを維持していきます。
- 2 賑わい・交流を創出するウォークアブルネットワーク**
歩行者天国は継続していきます。イベント時にこれまで同様、多様な使い方ができることに加え、日常時も「誰もが気軽に集まれ賑わいのある場」「ゆっくりと時間が過ごせる場」として活用できるようにしていきます。
- 3 多様な活動を支える機能誘導と配置**
「買い物しやすい場」となるように、1階は「魅力的な店舗」とし商店街のつながりをつくっていきます。2階以上は、店舗以外にも、事務所や住宅等多機能な場とすることが考えられます。また、道路空間と連携した魅力的なカフェの出店等を推奨していきます。
- 4 市街地の更新**
「誰もが気軽に集まれ賑わいのある場」となるように建物の更新と合わせて多くの人が集まる機能を誘致していきます。また、商店街の連続性を維持できるような建物の建替えを推奨していきます。
- 5 グリーンインフラの活用による快適性・防災性の確保**
「ゆっくりと時間が過ごせる場」として、官民連携でまちなかの緑を確保していきます。
- 6 移動しやすい環境づくり**
現在ある仮設の駐輪場所について「駐輪しやすいシステム」を考えていきます。また、各店舗への搬入動線について検討していきます。
- 7 スマートシティと平塚発の新技术活用**
デジタルサイネージ等を活用した情報提供により来街者の利便性を向上させていきます。

■空間のイメージ



1
七夕まつり
のための仕掛け
を維持



出典：紅谷パールロード 商店街ホームページ
<https://pearlroad.jp/2022/10/14/202225igo/>

大門通り・浜大門通りのまちづくりイメージ案

■これまでのうごき

○平塚八幡宮の表参道

大門通り・浜大門通りは、平塚八幡宮の表参道として商店街が形成され、平塚の商業発祥の地とされています。東海道が整備される江戸以前より地域文化の拠点として、人々が往来していた歴史のある通りです。



○大門会と浜大門新光会で作成した通りのまちづくり計画

大門通り・浜大門通りは、令和元年度に「大門通り・浜大門通り空間形成ガイドライン」を作成し、「平塚八幡宮の表参道として、にぎわいや落ち着きのある雰囲気をつくる！」を目標に様々な取組みを進めています。その中で平塚八幡宮の鳥居と同じ色である大門レッドを活用してまちづくりを進めていくことが記載されています。

大門通り・浜大門通り空間形成ガイドライン

《まちづくりの方針》

平塚八幡宮の表参道として、にぎわいや落ち着きのある雰囲気をつくる！

- 空間の活用
- 表参道の雰囲気づくりの活動
- 新規店舗誘致
- 街並み・景観づくり



赤色
(大門レッド)

アクセントカラー
鳥居と同じ赤色

○道路空間を活用したイベントの開催

大門通り・浜大門通りは、平塚八幡宮の表参道としてのまちづくりを進めるために、ぼんぼり市、大門市、夕暮れ酒場等の道路空間を活用したイベントを実施しています。イベント時だけでなく、日常的に道路空間を活用し、にぎわいや落ち着きのある雰囲気を作っていくことが考えられます。



大門市（大門通り）



夕暮れ酒場（浜大門通り）

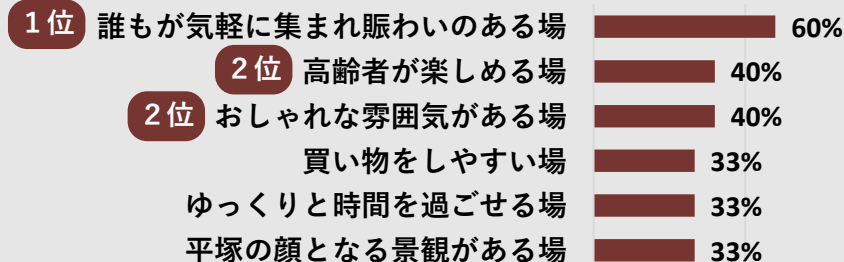
■商業者アンケートから把握できるニーズ

令和5年2月～3月にまちなかの商業者を対象に将来構想についてアンケートを行いました。大門通り、浜大門通りの結果は以下のようになりました。

大門通り 回答者10名（22名中）
浜大門通り 回答者5名（14名中）
回答率 41.7%

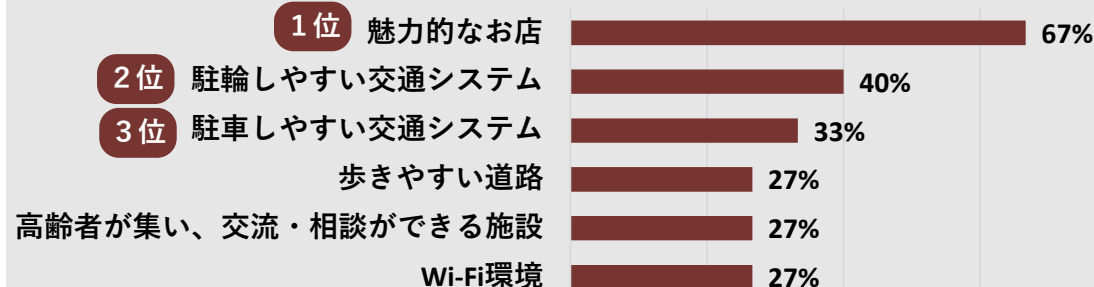
①商店会の将来像

上位6項目（全11項目）



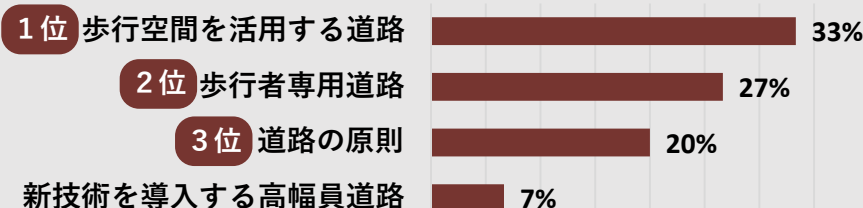
②必要な都市機能

上位6項目（全29項目）



③望ましい道路のパターン

全4項目



1位のイメージ図



○アンケートから把握できるニーズ

将来像は、「誰もが気軽に集まれ賑わいのある場」が一番多くなっています。また、必要な機能は「魅力的なお店」「駐輪・駐車しやすい交通システム」が多くなっています。そして、望ましい道路のパターンは、「歩道空間を滞留空間として活用する道路」が一番多く選ばれました。

大門通り・浜大門通りのまちづくりイメージ案

平塚商業発祥の地として、平塚八幡宮の表参道を感じられる空間が求められています。また、イベント等をふまえて道路空間を有効に活用していくことが求められています。

まちづくりのコンセプト

平塚八幡宮の表参道として、
にぎわいや落ち着いたある
雰囲気をつくる！

まちづくりの方針

1 地域資源・商店街の特色を活かした まちの魅力づくり

大門通り・浜大門通り空間形成ガイドラインに基づき、表参道の雰囲気づくりや景観・街並みづくりを継続していきます。和風な植栽やベンチ等をおき、「おしゃれな雰囲気がある場」としていきます。道路の舗装は高質なものとし、アクセントカラーとして、大門レッドを活用していきます。

2 賑わい・交流を創出する ウォークブルネットワーク

道路は「誰もが気軽に集まれ賑わいのある場」を創出するために、歩道（歩行空間）を広げることで、誰もが安心して歩ける歩行者優先の道路とします。また、道路空間と連携した魅力的なカフェの出店等を推奨していきます。

3 多様な活動を支える機能誘導と配置

「買い物しやすい場」となるように、1階は「魅力的な店舗」とし商店街のつながりをつくっていきます。2階以上は、店舗以外にも、事務所や住宅等多機能な場とすることが考えられます。

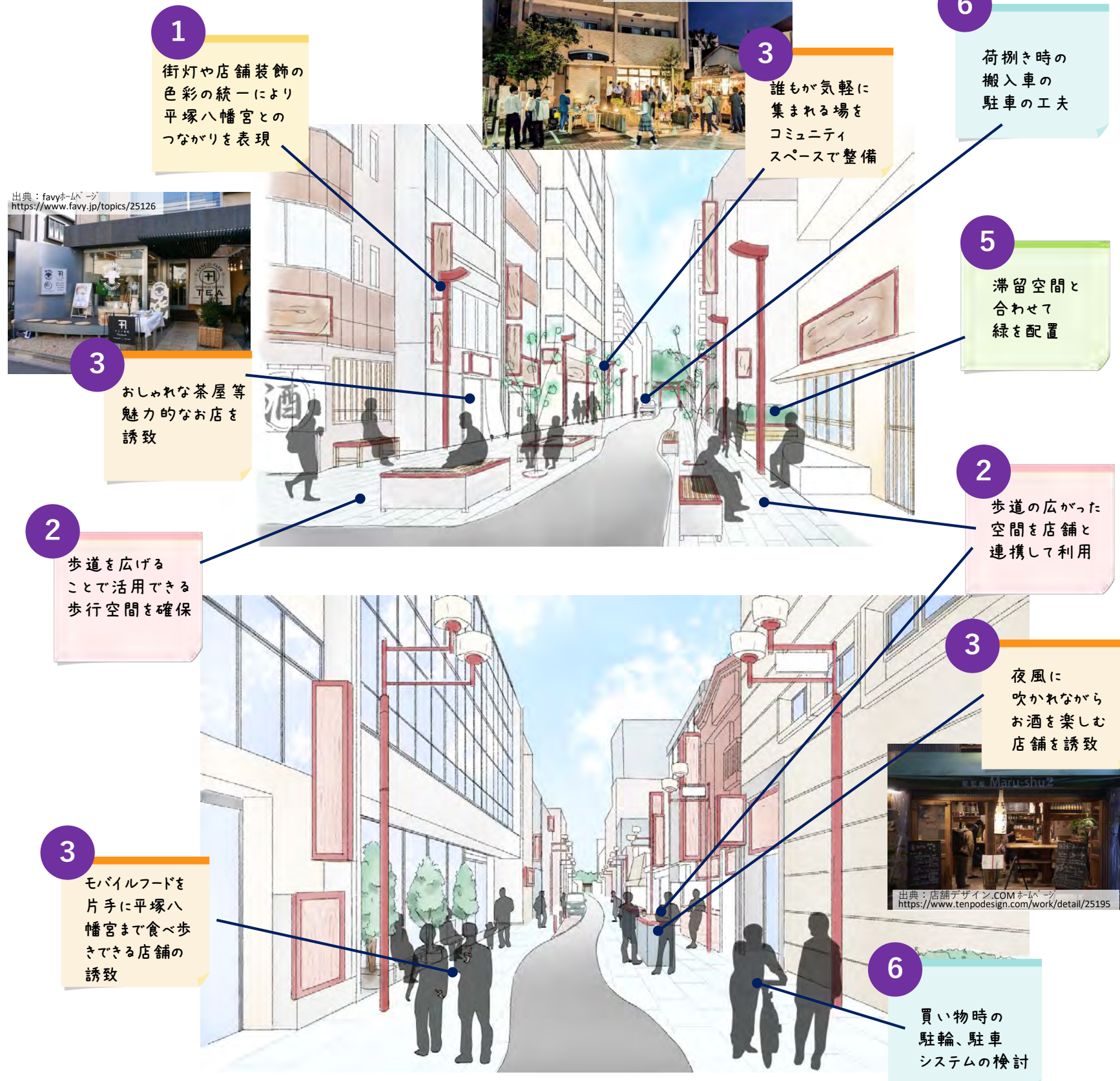
5 グリーンインフラの活用による 快適性・防災性の確保

表参道として、平塚八幡宮へつながるグリーンネットワークを形成し、木陰で休めるような空間を作っていきます。また、松や竹など和の雰囲気を感じられる植栽としていきます。

6 移動しやすい環境づくり

誰もが歩きやすい歩行環境を整備するとともに、買い物時の駐輪、駐車システムや搬入車の駐車等を検討し、より移動しやすい通りとしています。

空間のイメージ



公園通りのまちづくりイメージ案

■これまでのうごき

○平塚市総合公園へつながる通り

公園通りは、駅から総合公園につながる通りです。現在、バッティングパレス相石スタジアムひらつかではプロ野球「イースタンリーグ」、レモンガススタジアム平塚ではプロサッカー「Jリーグ」、トッケイセキュリティ平塚総合体育館ではプロバスケットボール「Bリーグ」が開催されています。スポーツをするだけでなく、ハイレベルなプロスポーツを観戦する施設としても人気があります。

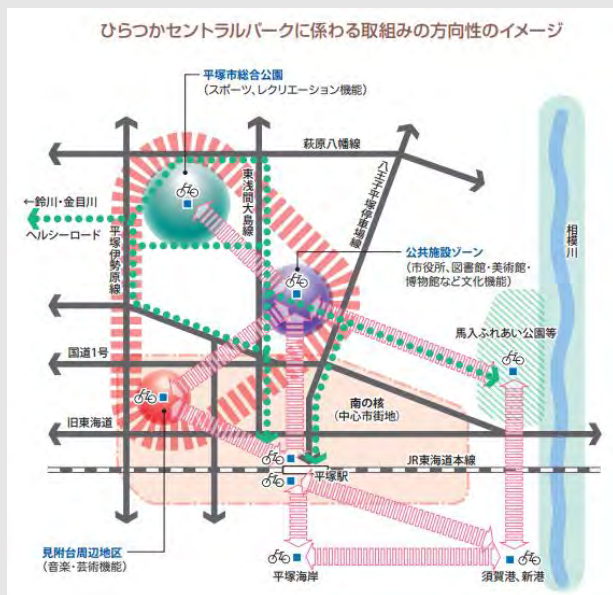


ひらつかの顔づくり「ひらつかセントラルパーク」

○平塚市都市マスタープラン（第2次）では、平塚市総合公園と市役所など公共施設ゾーン、見附台周辺地区を一体的に捉えたゾーンを平塚の顔の一つとして「ひらつかセントラルパーク」と位置付けています。

○公園通りは、平塚駅西口とセントラルパークをつなぐ主な交通軸のひとつとなっています。

○セントラルパークを中心とした主な取組みとして、歩行者空間や自転車空間の創出、みどりやオープンスペースの充実などを進めるとしています。



平塚市都市マスタープラン(第2次)

○飲食店の立地

公園通りには、飲食店が多く立地しており、スポーツ観戦ができる店舗等も立地しています。また新仲会では、おしゃれなカフェ等の立地があります。市外から訪れた方を迎えるのに適していると考えられます。



出典：IRISH PUB CELTS(カ)平塚店ホームページ
https://gcwc000.group.jp/



出典：YAHOO! ニュースホームページ
https://news.yahoo.co.jp/expert/articles/608512c4f8bacc81777a1bab2e8d9914e740158

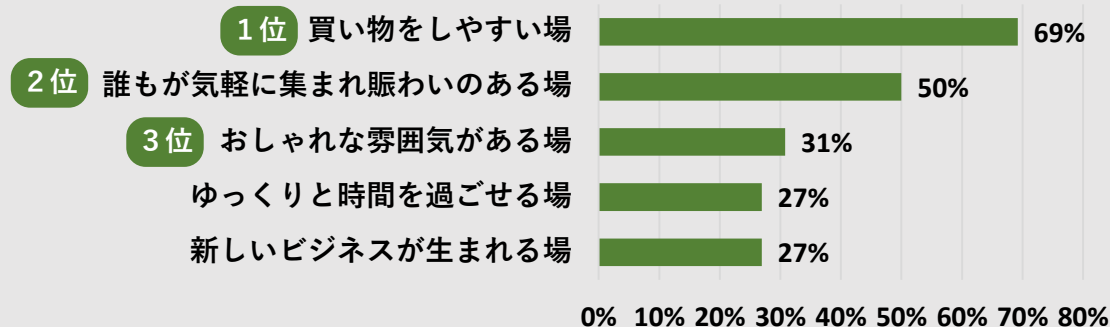
■事業者アンケートの結果

令和5年2月～3月にまちなかの事業者を対象に将来構想についてアンケートを行いました。公園通りの商店会の結果は以下のようになりました。

西口商店会 回答者11名(42名中)
新仲会 回答者15名(20名中)
回答率 41.9%

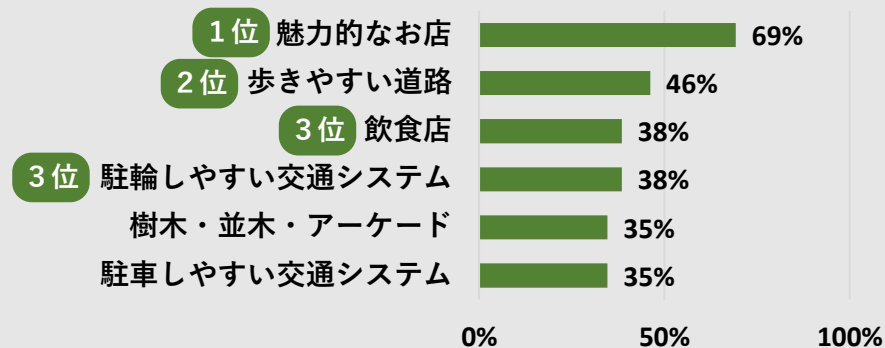
①商店会の将来像

上位5項目(全11項目)



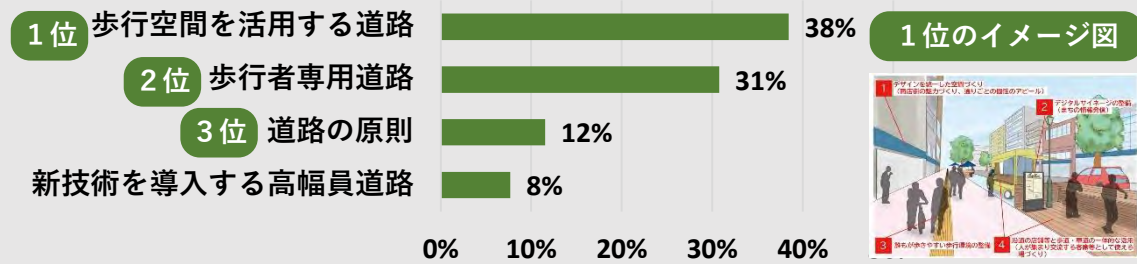
②必要な都市機能

上位6項目(全29項目)



③望ましい道路のパターン

全4項目



○アンケートから把握できるニーズ

将来像は「買い物しやすい場」「誰もが気軽に集まれ賑わいのある場」が多くなりました。また必要な機能は「魅力的なお店」「歩きやすい道路」が多くなりました。そして望ましい道路のパターンは「歩道空間を滞留空間として活用する道路」が一番多く選ばれました。

公園通りのまちづくりイメージ案

平塚総合公園へつながる通りとして、多様なスポーツや緑を感じることができ、市外からの方をお出迎えする空間が求められています。

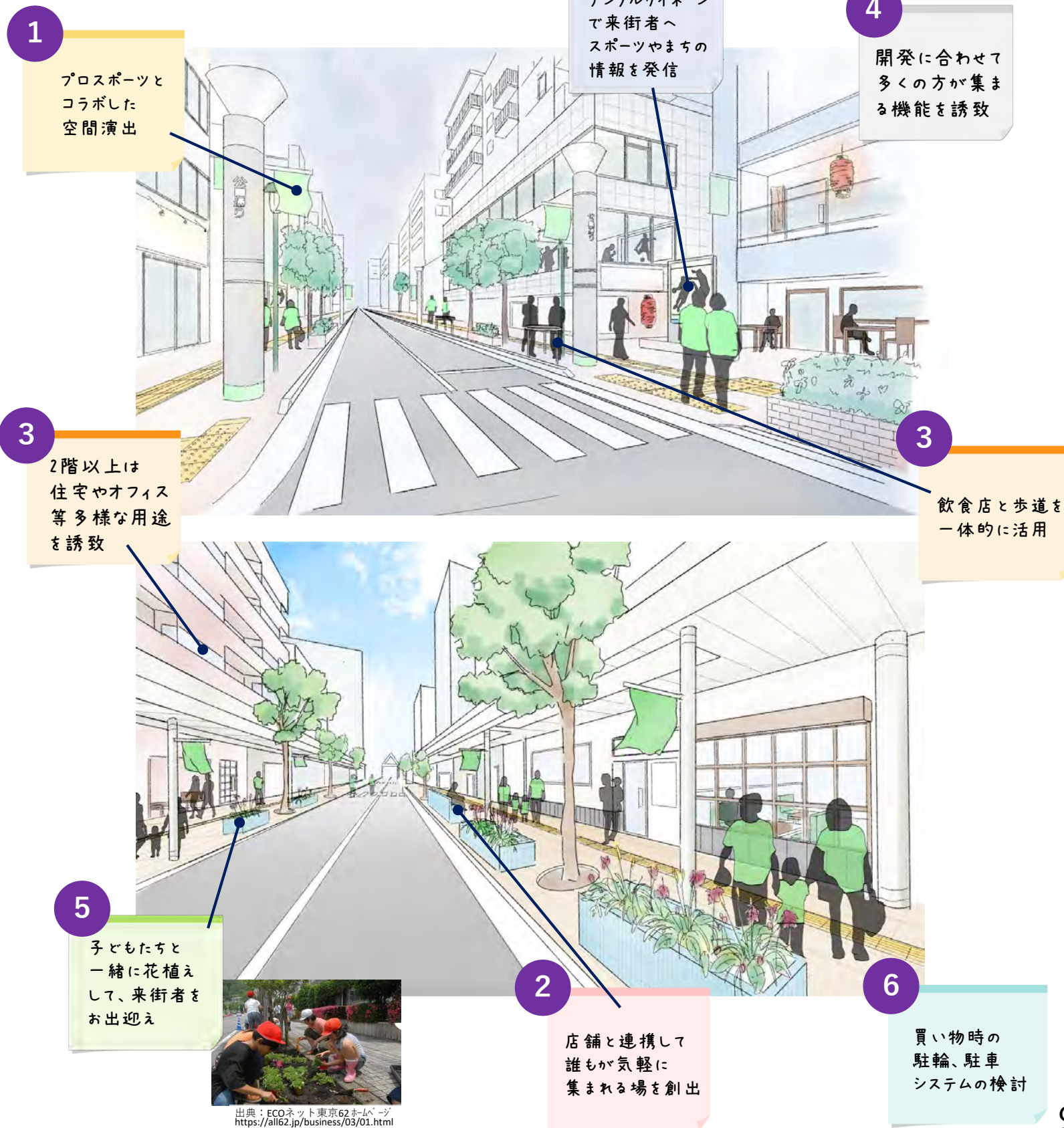
■まちづくりのコンセプト

プロスポーツと緑を感じる
おしゃれなストリート

■まちづくりの方針

- 1 地域資源・商店街の特色を活かしたまちの魅力づくり**
駅から平塚市総合公園へつながる通りのため、プロスポーツとコラボした空間にしていきます。
- 2 賑わい・交流を創出するウォークブルネットワーク**
歩道上の植栽と植栽の間の部分を活用できるようにし、「誰もが気軽に集まれ賑わいのある場」や「駐輪しやすいシステム」として活用できる空間を確保していきます。
- 3 多様な活動を支える機能誘導と配置**
「買い物しやすい場」となるように、1階は「魅力的な店舗」とし商店街のつながりをつくっていきます。2階以上は、店舗以外にも、事務所や住宅等多機能な場とすることが考えられます。また、店舗と公共空間（歩道上空間、広場等）の連携をはかり、商店会や店舗側が柔軟に利用できる仕組みをつくっていきます。
- 4 市街地の更新**
「誰もが気軽に集まれ賑わいのある場」「子ども連れが楽しめる場」となるように建物の更新と合わせて多くの方が集まる機能を誘致していきます。
- 5 グリーンインフラの活用による快適性・防災性の確保**
平塚総合公園へつながる通りとして、グリーンネットワークを形成していきます。緑を効果的に配置することにより、「おしゃれな雰囲気がある場」を演出していきます。また、子どもたちと一緒に花壇を整備することも考えられます。
- 6 移動しやすい環境づくり**
誰もが歩きやすい歩行環境を整備するとともに、買い物時の駐輪、駐車システムや駐車場の出入り口を工夫することでより移動しやすい通りとしています。
- 7 スマートシティと平塚発の新技术活用**
デジタルサイネージ等を活用し、プロスポーツ情報やまちの情報等の情報提供により来街者の利便性を向上させていきます。

■空間のイメージ

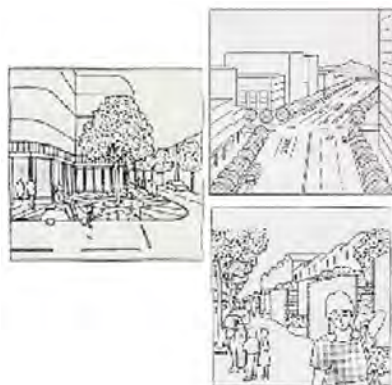


フェスタロードのまちづくりイメージ案

■これまでのうごき

○景観計画「都市のシンボル軸」

フェスタロードは、平塚市の顔としての魅力や活力を印象づける、平塚駅北口から、市役所などの行政機関や文化施設などの集積した地区を経て、市総合公園に至る区域として位置づけられています。都心の顔となるシンボル軸の形成と公共施設のシンボル性の創出を図り、緑豊かなまちなみの形成を目指していくこととしています。そのため、フェスタロードでの動きは平塚市の顔として注目される可能性が大きいです。



○平塚駅につながる通り

フェスタロードは、平塚駅北口駅前広場につながる通りとして、様々な交通が集まっている場所になります。今後も、多様な交通を導入していく可能性があります。



○高幅員道路

フェスタロードは、平塚駅北口駅前広場から国道1号線まで、道路幅員36mとなっています。高幅員の道路のため、空間に余裕があり、今後、多様な機能を受け入れられる可能性があります。

○歩道上に整備されている駐輪場

フェスタロードは、「駅前大通り西」「駅前大通り東」と2か所で一時駐輪場が整備されています。2時間まで無料、24時間100円のため、多くの方に利用されている状況です。



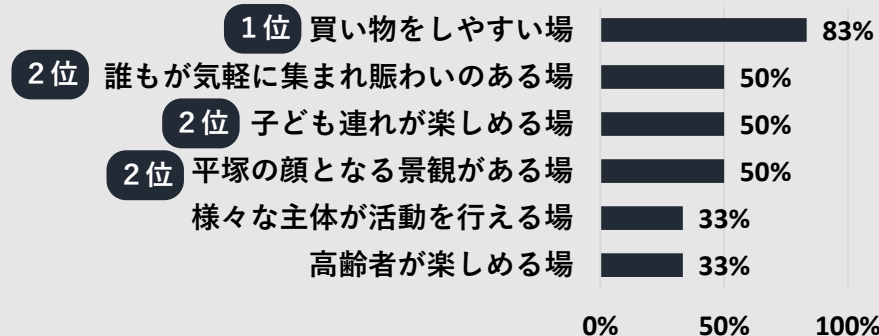
■商業者アンケートから把握できるニーズ

令和5年2月～3月にまちなかの商業者を対象に将来構想についてアンケートを行いました。フェスタロード沿道を含む商店会の結果は以下のようになりました。

みどり会 回答者6名 (16名中)
回答率 37.5%

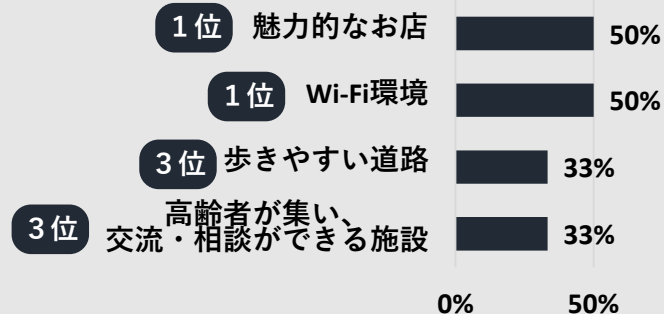
①商店会の将来像

上位6項目 (全11項目)



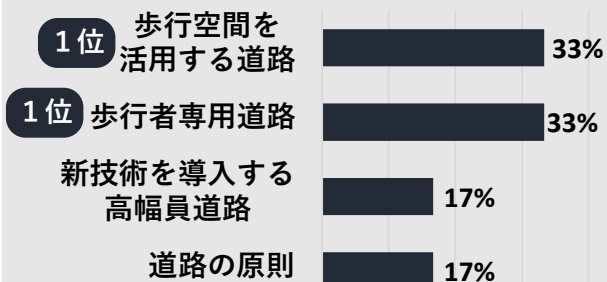
②必要な都市機能

上位4項目 (全29項目)



③望ましい道路のパターン

全4項目



1位のイメージ図



フェスタロードのまちづくりイメージ案

平塚のシンボル軸として注目を集めることができる通りで、道路空間に余裕があり、多様な交通が集まっているため、平塚発の新技术やグリーンインフラの新技术等を活用し先進的な通りにしていきます。

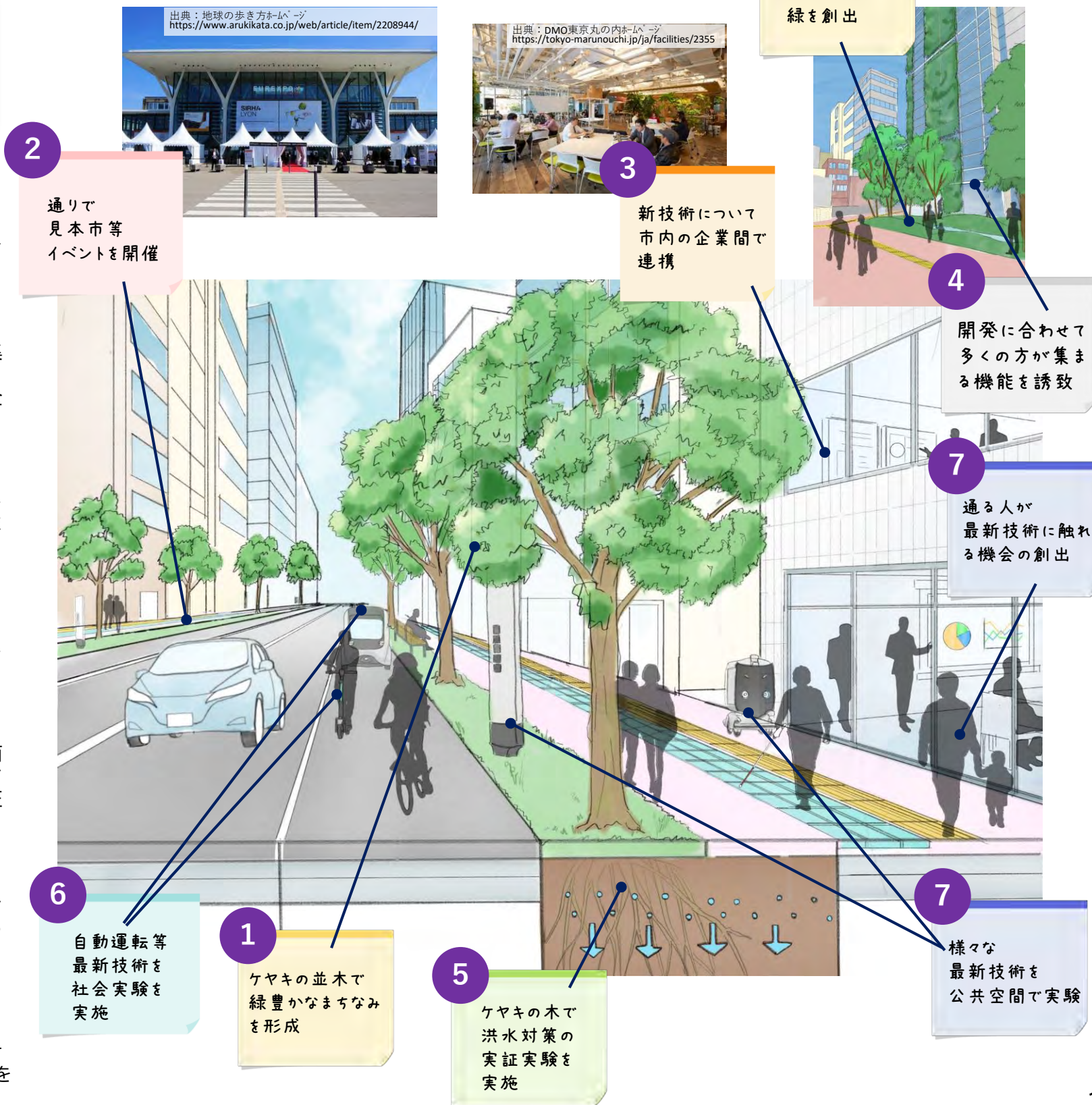
■まちづくりのコンセプト

平塚の最新技術を世界へ発信するストリート

■まちづくりの方針

- 1 地域資源・商店街の特色を活かしたまちの魅力づくり**
都心の顔となるシンボル軸の形成を目指し、緑豊かなまちなみの形成を行っていきます。
- 2 賑わい・交流を創出するウォークブルネットワーク**
歩道のうち、余裕のある部分を活用できるようにし、「誰もが気軽に集まれ賑わいのある場」として活用できる空間を確保していきます。さらに、イベント時等では、公共空間（歩道上空間、広場等）を商店会や企業等が柔軟に利用できる仕組みをつくっていきます。
- 3 多様な活動を支える機能誘導と配置**
平塚にある企業を中心に、新技术についての情報交換、連携を目的としたリビングラボを交流拠点とし、公共空間の活用方法を検討していきます。
- 4 市街地の更新**
「平塚の顔となる景観がある場」「誰もが気軽に集まれ賑わいのある場」となるように建物の更新と合わせて多くの方が集まる機能を誘致していきます。
- 5 グリーンインフラの活用による快適性・防災性の確保**
象徴的な通りとなるようにケヤキ並木とします。また、ケヤキの木は雨水を集める効果が期待でき、大雨時に地下に保水できる空間を確保しておくことで洪水対策に有効にはたらくことが研究されているため、実証実験の場として導入を検討していきます。
- 6 移動しやすい環境づくり**
様々な交通モードに対応できる道路空間の検討を行うとともに、「歩きやすい道路」となるようにバリアフリー化された道路を維持するとともに、さらなる歩きやすさの検討も行っていきます。
- 7 スマートシティと平塚発の新技术活用**
公共空間（道路・広場）にて、新技术を実験できるような仕組みを作っていきます。新技术は移り変わっていくため、常に更新していきけるような仕組みを検討します。また、「Wi-Fi環境」等無線LAN環境を整備していくとともに利用者にまちの情報発信を行っていきます。

■空間のイメージ



見附台周辺のまちづくりイメージ案

■これまでのうごき

○景観計画「歴史軸」

高麗山への眺めとともに多くの寺社や史跡が点在する、かつての宿場町のあった旧東海道沿いの区域となっています。高麗山への眺望に配慮した旧東海道沿道の建築デザインや緑化の誘導を進めるとともに、宿場の名残や雰囲気を活かし、歴史ある商店街にふさわしい、个性的で質の高い店舗づくりを促進するとともに、公共空間の整備・充実などにより、宿場の賑わいを再生したまちなみの形成を目指すこととしています。



東海道 平塚宿

近世の平塚宿は、1601（慶長6）年、徳川家康による東海道整備とともに成立した宿で、日本橋から数えて7番目の宿場にあたります。

平塚宿には、本陣、脇本陣、問屋場、高札場、旅籠などがあり、江戸時代を通して200軒を超える町並みが続いたと言われます。古くから物資や人の交流が盛んで、八王子道や大山への道との分岐点にもあたり、交通の要として発展した平塚宿。街道沿いは、家来を引き連れた大名や荷物を運搬する人などで賑わったそうです。



○東海道本通り線等景観整備

ひらしん平塚文化芸術ホールを始めとする様々な施設整備により、地区への来街者の増加が見込まれることから、平塚駅からのメインルートである東海道本通り線（市民プラザ前交差点～見附台周辺地区）と見附町7号線において、良好な道路空間を形成するため、歩道の美装化や無電柱化等の景観整備を行っています。



○ひらしん平塚文化芸術ホール等の供用開始

見附台は、市民センターを中心に多くの公共施設が立地するエリアでしたが、老朽化に伴い再整備を行い、令和4年3月にひらしん平塚文化芸術ホール等の供用を開始しました。ホールと合わせて、整備した見附台公園は、中央には芝生広場があり、西側にはウッドデッキ、南側には遊具広場があります。再整備により、指定管理者制度を導入しており、また歩道や空地等空間に余裕がある場所があるため、空間を有効活用していく可能性があります。

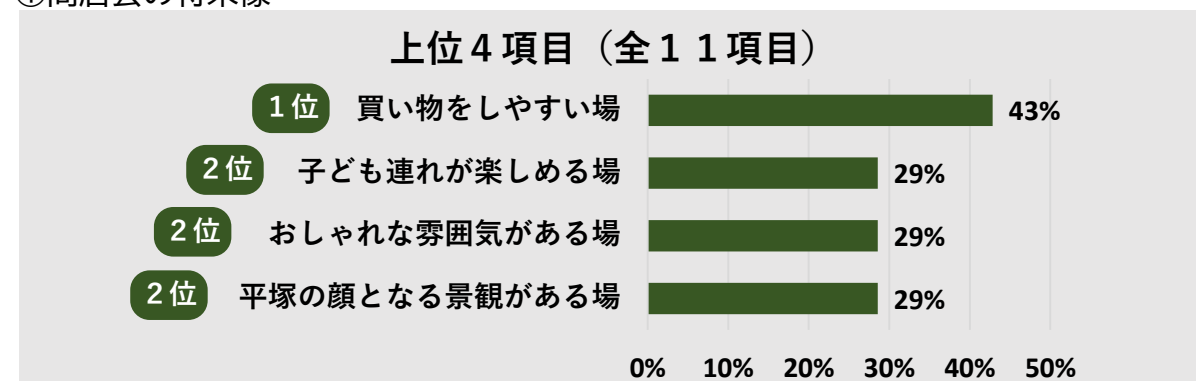


■商業者アンケートから把握できるニーズ

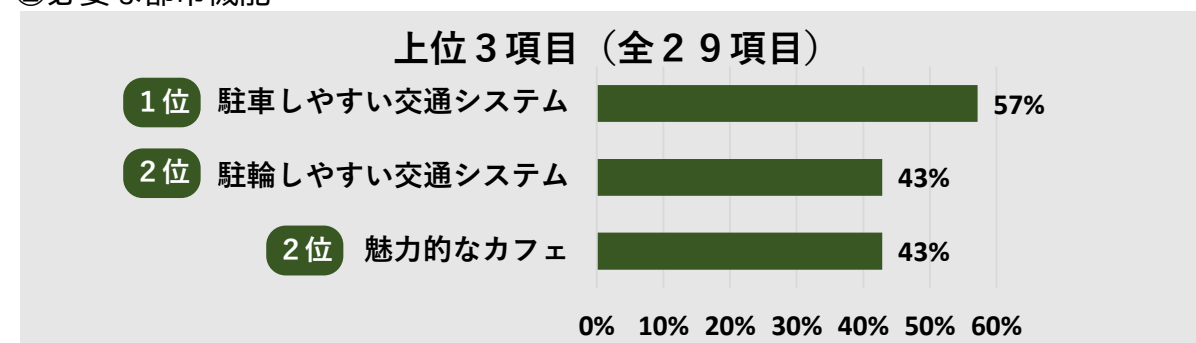
令和5年2月～3月にまちなかの商業者を対象に将来構想についてアンケートを行いました。見附台周辺の商店会の結果は以下のようになりました。

見附工ビス会 回答者5名（5名中）
新松会 回答者2名（8名中）
回答率 53.8%

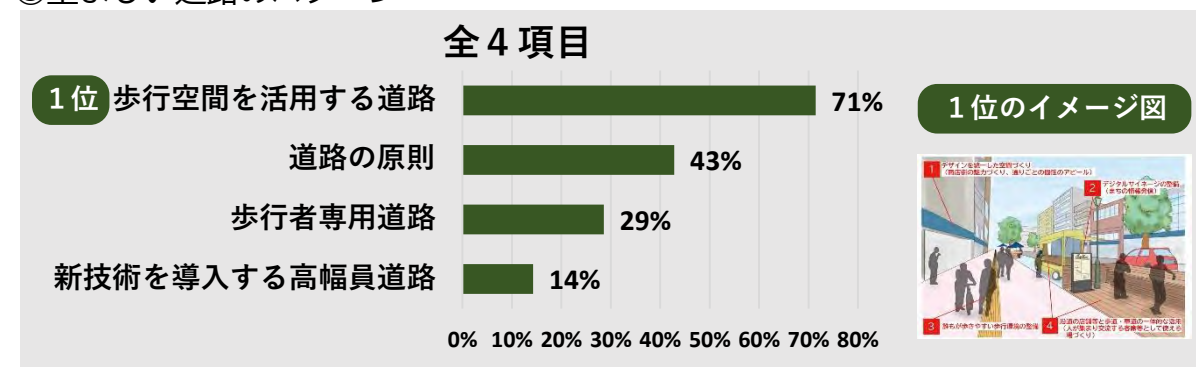
①商店会の将来像



②必要な都市機能



③望ましい道路のパターン



○アンケートから把握できるニーズ

将来像は「買い物しやすい場」が一番多くなりました。また必要な機能は「駐車しやすい交通システム」が一番多くなりました。そして望ましい道路のパターンは「歩道空間を滞留空間として活用する道路」が一番多く選ばれました。

見附台周辺のまちづくりイメージ案

平塚の歴史軸として東海道平塚宿を活かした空間が求められています。歩道等の空間に余裕があるため、歩道等の空間を活用し、宿場の名残りや雰囲気を感じられる通りが求められています。

■まちづくりのコンセプト

**江戸見附のある
東海道を感じるエリア**

■まちづくりの方針

1 地域資源・商店街の特色を活かしたまちの魅力づくり

「平塚の顔となる景観」をつくるために、高麗山への見通し線の確保を図るよう、高麗山の視線を妨げないように建物の高さに配慮し、屋上設備類の露出や屋上看板の設置がないように維持していきます。

2 賑わい・交流を創出するウォークブルネットワーク

歩道上の植栽と植栽の間の部分を活用できるようにし、「誰もが気軽に集まれ賑わいのある場」や「駐輪しやすいシステム」として活用できる空間を確保していきます。また、店舗と公共空間（歩道上空間、広場等）の連携をはかり、商店会や店舗側が柔軟に利用できる仕組みをつくっていきます。

3 多様な活動を支える機能誘導と配置

「買い物しやすい場」となるように、1階は店舗とし商店街のつながりをつくっていきます。2階以上は、店舗以外にも、事務所や住宅等多機能な場とすることが考えられます。

4 市街地の更新

建物の更新に合わせて、「子ども連れが楽しめる場」や「おしゃれな雰囲気がある場」を創出していきます。

5 グリーンインフラの活用による快適性・防災性の確保

ひらしん平塚文化芸術ホールへつながる通りとして、グリーンネットワークを形成していきます。緑は、東海道を演出するための樹木の検討をしていきます。

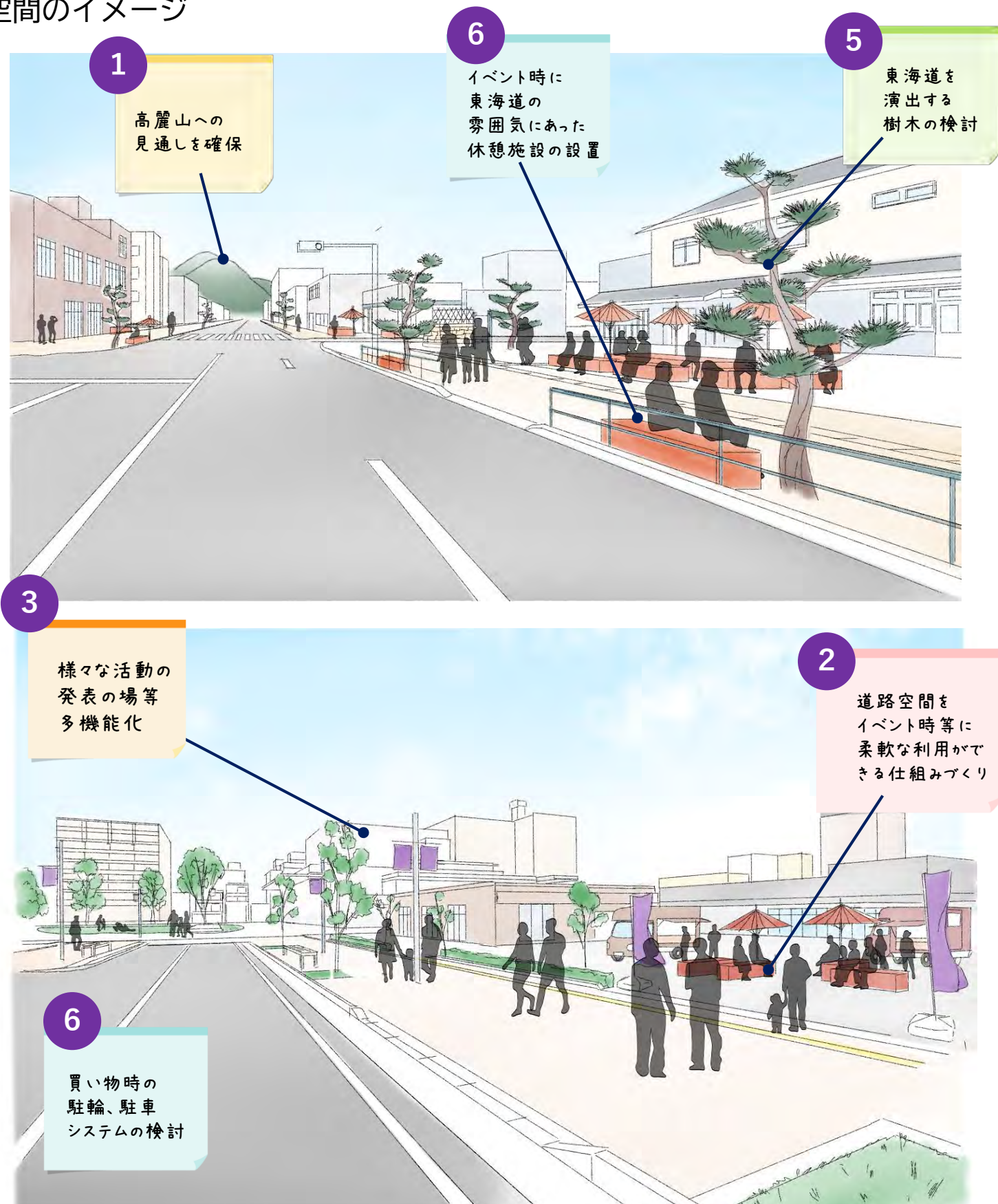
6 移動しやすい環境づくり

誰もが歩きやすい歩行環境を整備するとともに、買い物時の駐輪、駐車システムや駐車場の出入り口を工夫することで、より移動しやすい通りとしていきます。

7 スマートシティと平塚発の新技术活用

デジタルサイネージや「wi-fi環境」等無線LAN環境を整備し、平塚文化芸術ホールの利用者など来街者に向けたまちの情報発信を行っていきます。

■空間のイメージ

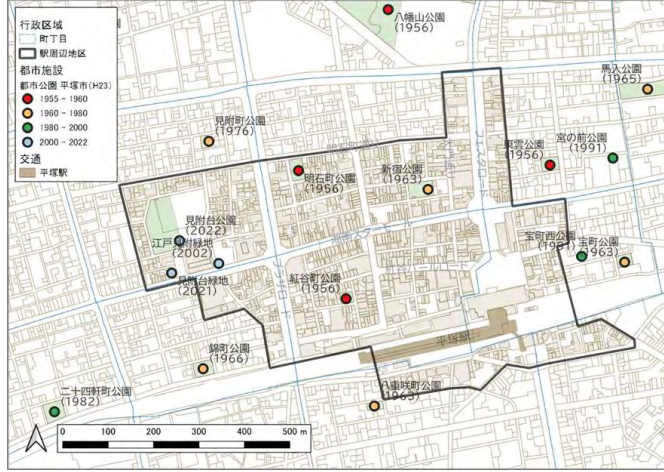


★ まちなかの公園・広場のイメージ案

■これまでのうごき

○開設から60年以上経過

まちなかの公園は、開設から60年以上経過しているところが多くあります。本来の遊具、休養、防災等の機能のうち、現在では日常の人々のレクリエーションの空間としての機能がより求められるようになっていきます。



○公園・広場等の現状

まちなかの公園は、樹木が大きくなり、見通しが悪くなっている状況です。商店街等に隣接していないため、人通りも少ない状況です。まちなかの公園や公開空地を含めた広場はある程度整備されている状況ですが、日常的なイベント等に使いづらい状況にあります。

〈まちなかの主な公園・広場〉

新宿公園

紅谷町公園

明石町公園



まちかど広場

まちかど広場は、2005年（平成17年）に銀行跡地を広場に整備し、開設しました。中心商店街の魅力と賑わいを創出し活性化を図ることを目的に、常設のステージや設備があります。地下はまちなかのイベントのための倉庫として活用しています。七夕まつり、ひらつな祭等をはじめ、月に数回のイベント利用があります。

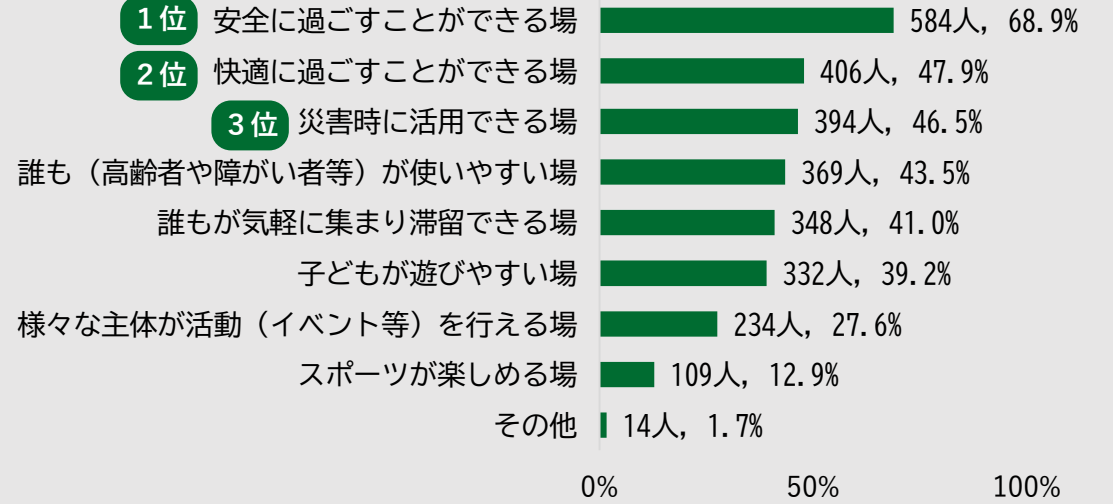


■市民アンケートから把握できるニーズ

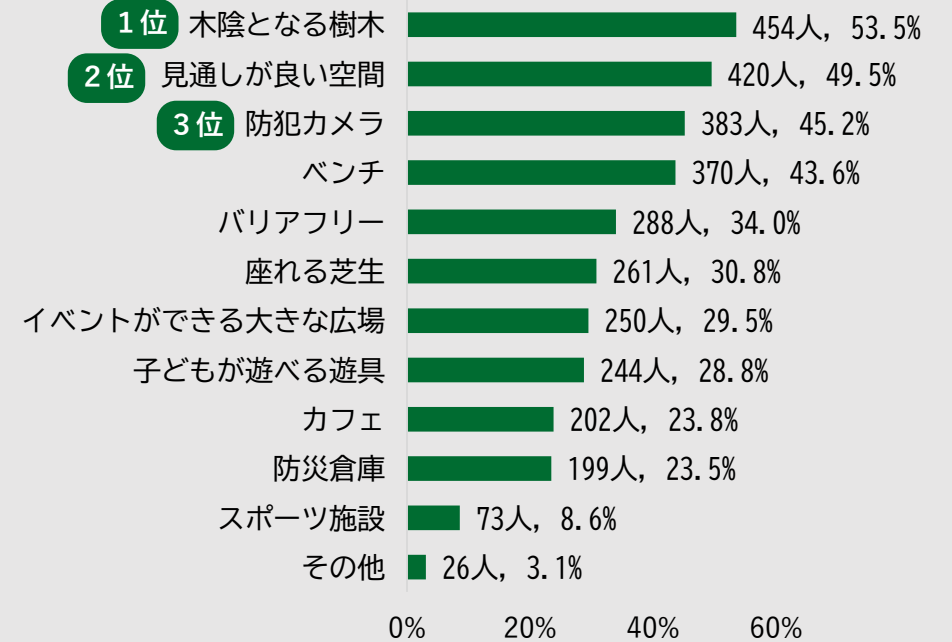
令和4年8月～9月に平塚市民約3000名を対象に将来構想についてアンケートを行いました。将来の公園・広場についての結果は以下のようになりました。

市民約3000人を対象に配布
回答者数 848人
回答率 28.1%

①公園・広場はどんな場になったら良いか



②公園・広場に必要な施設



○アンケートから把握できるニーズ

まちなかの公園・広場は「安全に過ごすことができる場」「快適に過ごすことができる場」が求められています。また、必要な施設として、「木陰となる樹木」「見通しが良い空間」等が選ばれました。

★ まちなかの公園・広場のイメージ案

現状、まちなかの公園・広場は利用が少なく使いづらい状況です。今後、新しく整備する際や再整備する際は、安全で快適に使いやすい公園・広場が求められています。

■公園・広場のまちづくりコンセプト

**安全に快適に過ごすことができ
誰もがつかいやすい公園・広場**

■まちづくりの方針

2 賑わい・交流を創出するウォークアブルネットワーク

周辺の道路や建物内の空間を一体的に活用できるようにしていきます。商店会や店舗側が柔軟に活用できる仕組みをつくっていきます。また、民間開発に伴う公開空地や暫定的な空き地等を活用していくことにより、賑わい・交流に資する広場等の配置を目指します。

3 多様な活動を支える機能誘導と配置

「安全・快適に過ごすことができる場」として、遊ぶ・休憩する以外にも、自分たちでイベントを開催したり、東屋で交流したりできるような機能誘導を行っていきます。また、「災害時に活用できる場」とするために、防災倉庫をはじめ、災害時に活用できるマンホールトイレやかまどベンチ等も整備していきます。

4 市街地の更新

建物の更新に合わせて、公開空地を活用した広場を整備する等、開発に合わせてまちなかに広場・公園を再配置していきます。

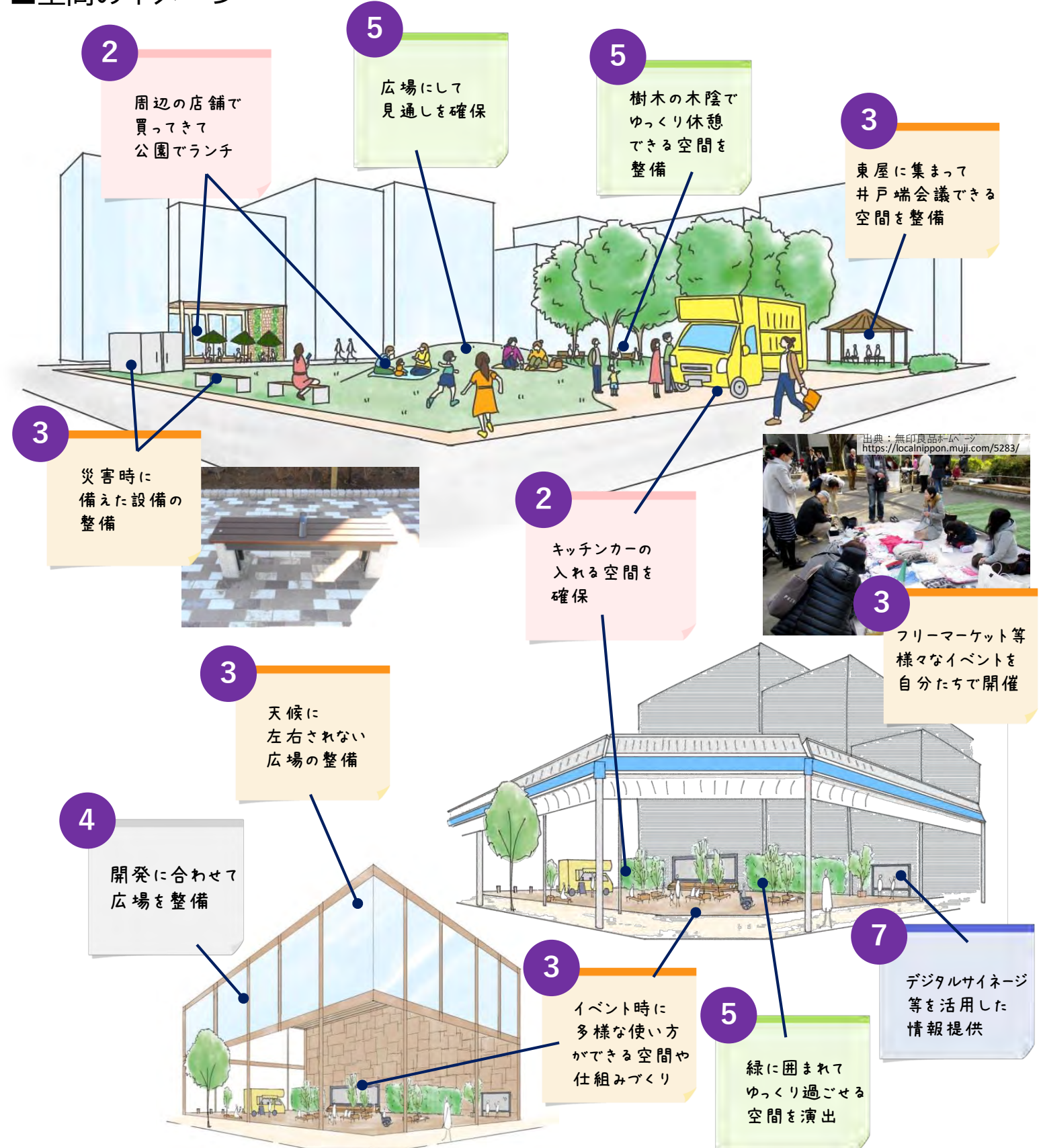
5 グリーンインフラの活用による快適性・防災性の確保

公園では、「木陰となる樹木」等で緑を確保するとともに、広場等で「見通しが良い空間」とすることで、「安全に過ごすことができる場」としていきます。また、周辺店舗や通りへつながるようにグリーンネットワークを形成していきます。さらに、大雨時に備え、洪水対策についても検討していきます。広場では、鉢植えや壁面緑化等で緑を確保し、「快適に過ごすことができる場」としていきます。

7 スマートシティと平塚発の新技术活用

デジタルサイネージ等を活用し、まちのイベント情報等の情報提供により来街者の利便性を向上させていきます。また、新技术の社会実験の場として活用できるような仕組みづくりを行っていきます。

■空間のイメージ



駅前広場のイメージ案

■これまでのうごき

○平塚駅の成り立ち

平塚駅は、1887年（明治20年）に国府津駅まで延伸されたことに伴い、国有鉄道の駅として開業しました。その後、1973年（昭和48年）に駅ビル「ラスカ平塚」が日本で最初の国鉄出資ビルとして開業しました。現在、北口と南口に駅前広場が整備されている状況です。

○北口駅前広場

北口駅前広場は、バリアフリーに対応するため、2009年（平成21年）にロータリーの整備を行い、2022年（令和4年）には下りエスカレーターの整備を行いました。現在、複数の交通手段が1か所に集まっているため、飽和状態となっています。

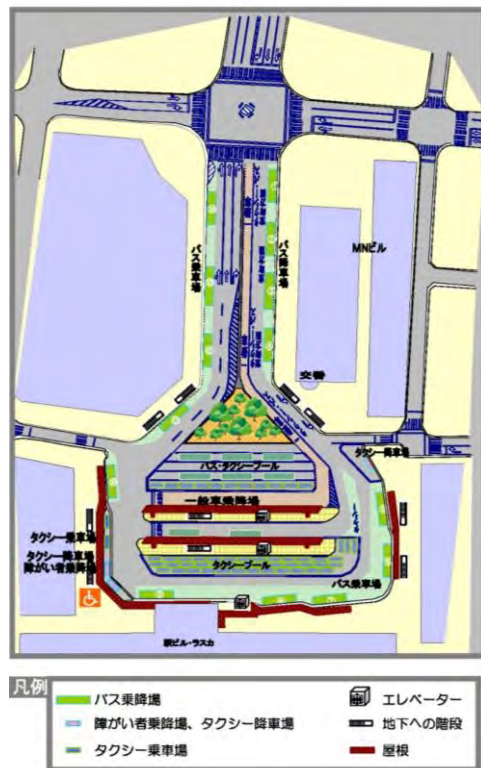
○南口駅前広場

南口駅前広場では、平塚駅からすみれ平の区間で自動運転の実証実験を行うことが予定されています。国内大手自動車メーカーであるいすゞ自動車株式会社が提供する大型バスを活用し、運転手が乗車する自動運転レベル2の実証実験を行う予定です。

○西口の現状

平塚駅西口は、現状では大部分は駐車場や市有地を活用した駐輪場であり、そのほかドラッグストアや飲食店などがあります。また、通勤、通学の送迎などによる路上駐車などが課題として挙げられます。

「平塚都市計画都市再開発の方針」では、再開発を促進する地区（二項再開発促進地区）に位置しており、再開発事業に合わせて駅前広場の機能分担を行い、西口に駅前広場を整備することはまちづくりに大きく貢献することが考えられます。そのため、今後の整備が期待されます。



北口駅前広場の交通集積

〈駅前広場〉



北口駅前広場



南口駅前広場

■市民アンケートから把握できるニーズ

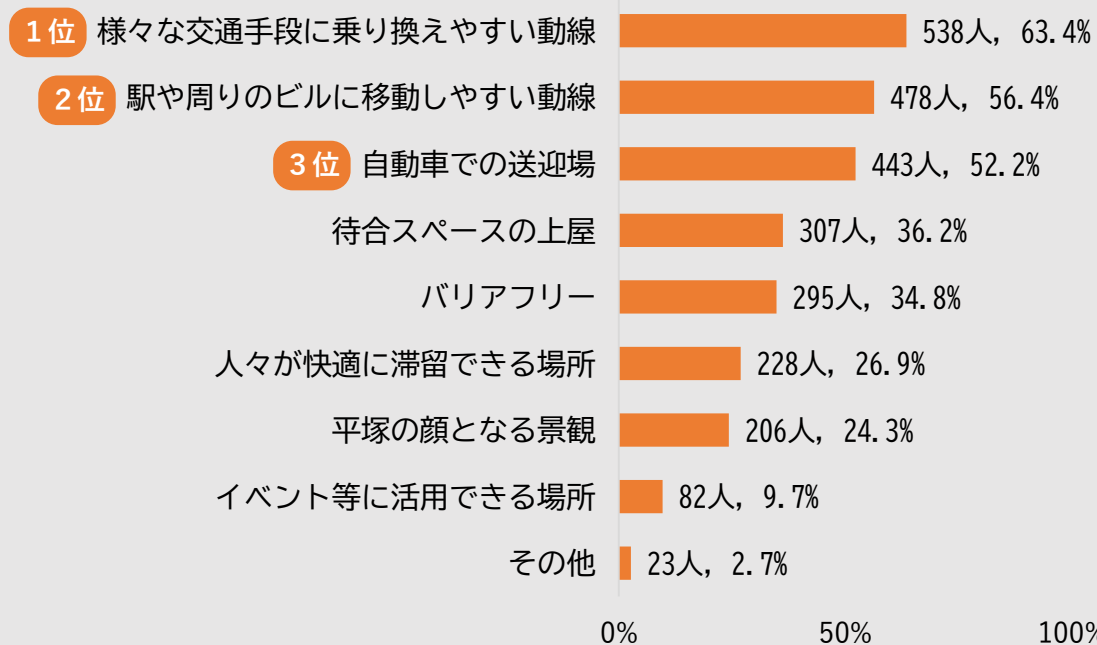
令和4年8月～9月に平塚市民約3,000人を対象に将来構想についてアンケートを行いました。駅前広場についての結果は以下のようになりました。

市民約3,000人を対象に配布
回答者数848人
回答率 28.1%

①駅前広場はどんな場になったら良いか



②駅前広場に必要な施設



○アンケートから把握できるニーズ

駅前広場は「安全に通行できる場」「乗り換えのしやすい場」が求められています。また、必要な施設として、「様々な交通手段に乗り換えやすい動線」「駅や周りのビルに移動しやすい動線」等が選ばれました。

駅前広場のイメージ案

現状、駅前広場は複数の交通手段があり飽和状態となっているため、機能分担が求められています。西口駅前広場の整備に期待するとともに、安全で様々な交通手段に乗り換えやすい駅前広場が求められています。

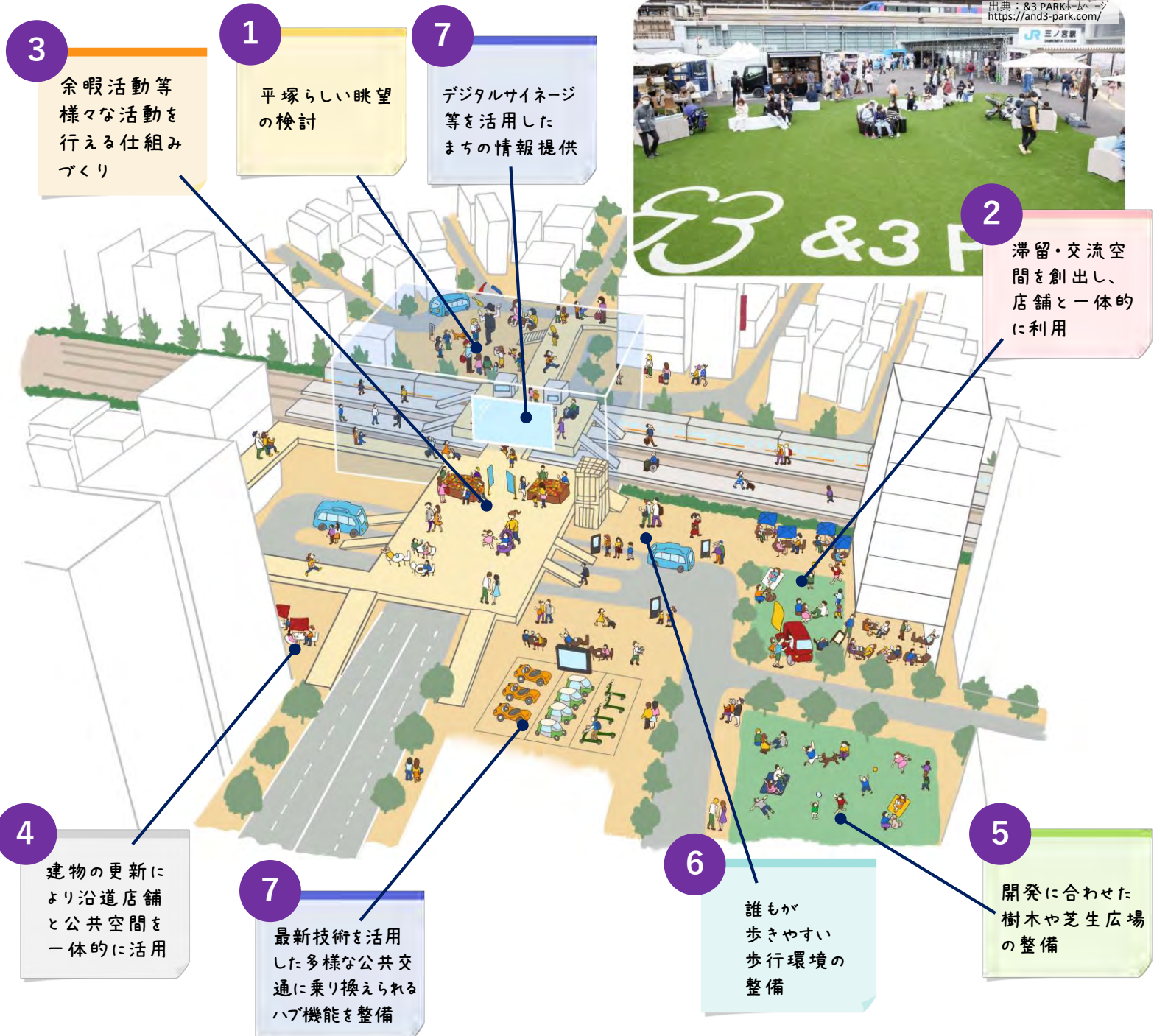
■駅前広場のまちづくりの方針

- 1 地域資源・商店街の特色を活かしたまちの魅力づくり**
市外から訪れる方にとって、平塚市の玄関口となるため、富士山や海、高麗山などの平塚らしい眺望を望めるような場所を検討していきます。
- 2 賑わい・交流を創出するウォークブルネットワーク**
駅前広場や駅前広場に面した建物の開発に合わせて、広場等の設置や建物低層部をまちに開けた形にすることで一体的に活用できるようにしていきます。また、多様な活動が行いやすい仕組みを作っていきます。
- 3 多様な活動を支える機能誘導と配置**
「乗り換えしやすい場」や買い物機能に加え、余暇活動や子育て支援活動、企業活動、医療等の生活サービス等多様な機能を誘導していきます。
- 4 市街地の更新**
駅前広場に面しているところについては、駅前広場側に広場やカフェ等の滞留空間を設け、市民の活動の場や公共交通の待ち時間を快適に過ごすことができるような建物の建替を誘導していきます。また、駅や公共交通から周辺の建物へのアクセス性を向上していきます。
- 5 グリーンインフラの活用による快適性・防災性の確保**
開発に合わせて整備される広場等に緑を増やし「快適に過ごす、待つことができる場」としていきます。
- 6 移動しやすい環境づくり**
乗り換えしやすい場とするために、様々な公共交通の配置を検討し、乗り換えやすい動線とします。また、安全に通行できる場とするために、さらなるバリアフリー化に加え、経路をわかりやすくし、混雑緩和等につなげていきます。
- 7 スマートシティと平塚発の新技术活用**
デジタルサイネージを活用した情報提供により来街者の利便性を向上させていくとともに、平塚市の情報やまちなかの情報を発信していきます。また、自動運転をはじめとした最新技術に対応した駅前広場の整備を進めていきます。

■北口駅前広場のまちづくりコンセプト

様々な公共交通へ乗り換えやすく
多様な活動と出会う拠点へ！

■空間のイメージ

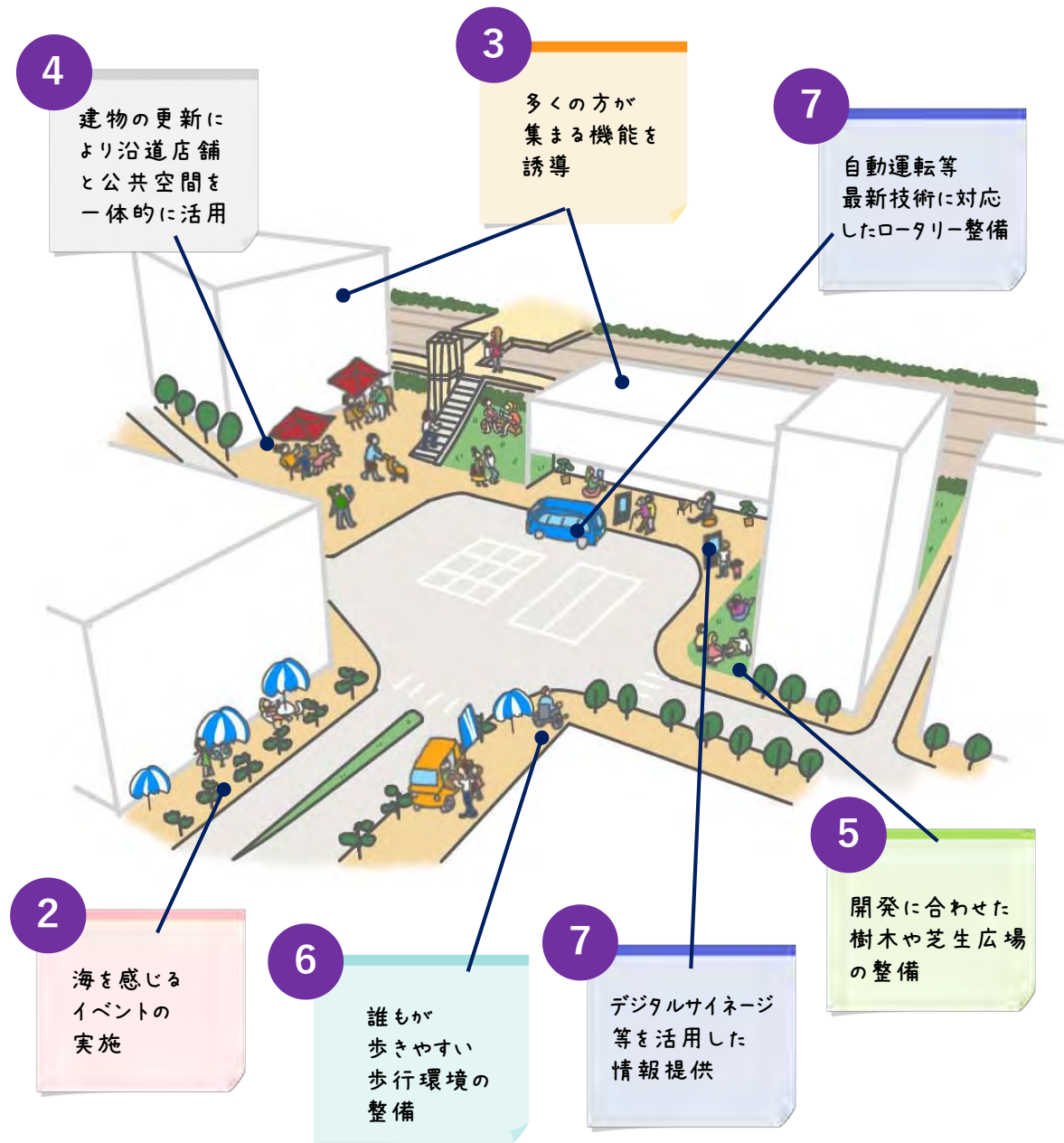


駅前広場のイメージ案

■南口駅前広場のまちづくりコンセプト

様々な公共交通へ乗り換えやすく
海を感じる交流拠点へ！

■空間のイメージ



■西口駅前広場のまちづくりコンセプト

より快適に電車に乗り換えられる
新しい拠点へ！

■空間のイメージ

